スペインの宿泊・飲食サービス業、7～9月期は雇用者増がけん引し雇用4.9%増

Turespañaによると、雇用者数は6%増、自営業者数は1.5%減。飲食サービス業は宿泊業を上回るペースで伸びが加速した

2026年11月9日（月）



スペインの宿泊・飲食サービス業では2026年7～9月期に雇用が増加したが、その伸びは雇用者に集中し、自営業者数は引き続き減少した。

11月9日（月）に公表された、Turespañaによるスペインの労働力調査の観光分野分析によると、宿泊業と飲食サービス業を含む宿泊・飲食サービス業全体の雇用者数は前年同期比4.9%増となった。このうち雇用者数は6%増加した一方、自営業者数は1.5%減少した。

この数字は、スペインの主要なサービス産業の一つで、雇用の創出状況に差が広がっていることを示している。同業界の企業は堅調なペースで従業員を増やしたが、自営業者数は逆の動きを見せた。

7～9月期のデータでは、宿泊・飲食サービス業の雇用増加率は4～6月期から小幅に加速した。業界全体の前年同期比伸び率は4～6月期の4.5%から7～9月期には4.9%となり、0.4ポイント上昇した。

ただし、全体の変化の内訳を見ると、業種によって動きは大きく異なる。レストランやバーなどを含む飲食サービス業では伸びが加速した。同分野の雇用者数は7～9月期に前年同期比4.8%増となり、4～6月期の2.8%から2ポイント上昇した。

一方、宿泊業も雇用者数は増加したものの、そのペースは鈍化した。7～9月期の宿泊業の雇用者数は前年同期比5.1%増で、4～6月期の9.2%を下回り、伸び率は4.1ポイント低下した。

Turespañaは、スペインの経済活動分類CNAEの改定後も比較可能性を保てるよう、同等の活動区分を用いて前年同期比伸び率を算出した。つまり、統計上の分類変更によるゆがみではなく、雇用動向の変化を示すことを意図した数値である。

このデータが示すのは雇用者数であり、賃金や売上高ではない。7～9月期も宿泊・飲食サービス業の労働市場は拡大基調を維持し、とりわけ飲食サービス業の勢いが強かった。一方、自営業者数の減少は、人員確保の回復が個人事業主よりも、従来型の雇用主と従業員による雇用に大きく依存していることを示唆する。

スペインでは宿泊・飲食サービス業が観光と労働市場全体で重要な役割を担っており、この対照は注目に値する。ホテル、レストラン、バーは通常、季節雇用やサービス業の採用で大きな割合を占め、特に旅行者需要が強い時期にはその傾向が顕著だ。雇用者数が増える一方で自営業者数が減少する背景には、業界の集約化、小規模事業者を取り巻く経営環境の厳しさ、あるいは人員を増やす余力のある大規模事業者への移行が考えられる。ただし、11月9日（月）に公表された公式データは、具体的な原因を示していない。

今回の7～9月期の報告は、4～6月期の動向を扱った8月7日公表の前回の基準資料に続くものだ。前回の状況と比べると、宿泊・飲食サービス業全体は引き続き成長しているものの、その内訳は変化している。レストランやバーの雇用は勢いを増し、宿泊業はそれ以前の高い伸びから減速し、雇用者と自営業者の比重はさらに雇用者側に傾いている。

したがって、Turespañaによる労働力調査の分析は、同じ四半期に宿泊・飲食サービス業全体で雇用創出が続く一方、雇用者と自営業者の動向には一段と差が生じたことを示している。業界が2026年の残りの期間を進むなか、この差は企業や政策担当者が注視すべき重要な指標の一つとなる可能性がある。